



看護学教育研究共同利用拠点
千葉大学大学院看護学研究科附属
看護実践研究指導センター

Center for Education and Research in Nursing Practice,
Graduate School of Nursing, Chiba University

看護系大学教員のためのFD推進ワークショップ

平成 26 年 8 月 7 日、「看護系大学教員のための FD 推進ワークショップ」を開催しました。本ワークショップは日本高等教育開発協会(JAED)の支援を受け、また FD マザーマップに取り組んでおられる佛教大学に会場をご提供いただき開催しました。50 名の募集に対し、全国から 64 名の皆さまにご参加いただきました。

講演「FD マザーマップの開発とその活用」では、当センターの和住淑子先生より開発の経緯を説明した後、FD マザーマップの実際の活用例として、佛教大学の松岡千代先生、岡山県立大学の難波峰子先生より、それぞれの大学における取り組みについてご紹介いただきました。

その後のプログラムでは、実際に FD マザーマップを使いながら参加者の皆様とワークを進めていきました。ワークショップ①では国立教育政策研究所の川島啓二先生より「FD マザーマップの自己診断」、ワークショップ②は 2 グループに分かれ、ワークショップ②-A は名古屋大学高等教育研究センターの中島英博先生より「教員個人の到達目標の構築」、ワークショップ②-B は帝京大学高等教育開発セ



ンター井上史子先生より「組織的課題の発見」にそれぞれ取り組みました。ワークショップ③は新潟大学教育・学生支援機構の加藤かおり先生より「全体の共有と振り返り」として、ワークショップ②の成果の共有、1 日を通しての学びの振り返りを行いました。参加者の皆様からは「マザーマップの具体的な活用方法がみえてきた」「自大学の課題が他大学でも課題と知ることができた」等の貴重なご意見を多数頂戴することができました。

FD マザーマップの開発とその活用

千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター 教授
和住淑子 先生

「看護学教育における FD マザーマップ」は、看護系大学教員に求められる能力を行動レベルで示した網羅的なマップです。FD に関し、看護系大学の人的・物的資源を相互に活用し合う体制を構築することを目的として開発されました。マップは、「基盤」「教育」「研究」「社会貢献」「運営」の 5 つの区分で構成されており、区分ごとに、看護系大学教員に求められる「能力」の要素が示されています。各看



和住淑子先生

護系大学でこのマップが活用され、看護学教育の質向上に資することを願っています。

佛教大学保健医療技術学部看護学科 教授 松岡千代 先生

佛教大学の看護学科は開設 3 年目の新しい学科であり、教員のバックグラウンドが多彩という特徴があります。全学を対象とした FD はありましたが、看護学科の FD は長期的見通しをもって、考えていく必要がある現状でした。国立教育政策研究所の FD マップのことが記憶にあり、調べたところ、FD マザーマップに出会ったそうです。そこで、FD のニーズ調査を行い、現状の把握をし、臨地実習についての研修も含めて、大学、学部、学科の歴史・理念の理解から始まり、今後は体系的・組織的・系統的な FD をどう進めるかが、課題だそうです。

岡山県立大学広域看護学講座 教授 難波峰子 先生

岡山県立大学の全体のFDは、近年のホットな話題を取り上げて行って来たそうです。岡山周辺にも看護系の大学が増え、教員の入れ替わりが激しくなっており、実習の調整が難しくなっているそうです。2013年3月にFD マザーマップに関する講演を北池正先生が行いました。それを受け、教育力向上支援事業において3年計画で岡山県立大学版のFDマップを作ろうということになりFD マザーマップ

を使ってみることを試みましたが、うまくいかなかったそうです。

そこでマップ全体を行うのが困難だったと考え、同年5月に臨地実習指導の部分だけで再度作成を試みました。具体的にすればするほど講座の特性に阻まれ、組織的にかつ具体的に活用しようとすると、領域や講座間の問題が出てくるため、具体的な内容は例示で表すよう工夫し、取りくんでおられます。

ワークショップ① FDマザーマップによる自己診断

国立教育政策研究所高等教育研究部 部長 川島啓二 先生

川島啓二先生のセッションでは、ワークショップ全体のオリエンテーションとワークショップ①「FD マザーマップによる自己診断」を行っていただきました。

まず、ワークショップ全体の目標「FD マザーマップの内容と基本的な使い方を説明できる」「FD マザーマップを活用した自大学でのFDを企画できる」を確認し、その後、ワークショップの全体の流れ、グランドルールについてご説明いただきました。

ワークショップ①は、参加者の皆様に事前に行っていたアンケートと課題をもとに進められました。まず、事前アンケートの結果から、看護系大学教員の特質、本ワークショップの参加者であるFD担当者の抱える課題等について共有しました。その後実際のワークでは、FD マザーマップの教育マップと研究マップに焦点を当て、「1. 事前課題を読み返し自己の特徴と今後の抱負をまとめる」「2. まとめた自己の特徴を、隣の人とシェアする」「3. 相手からの質問を踏まえて今後取り組むべきことをまとめる」の3つのワークを軸に展開していきました。自分がどのような特徴をもった教員なのか知ること、実際にワークシートに記入すること、それを他者と共有することによって、参加者の方は

自らについて、言語化・可視化することがよりスムーズになり、活発なワークが行われていました。

またセッションの中では、FD マザーマップの活用例をご紹介いただきました。FD マザーマップを活用することによって、自分はどこができていないのか「見つける」こと、自分がどの程度達成できているのか「測る」こと、また測るだけでなく、どういったアウトプットを獲得するか等、FD マザーマップの活用の可能性を様々な角度からお示しくございました。



ワークショップ②-A 教員個人の到達目標の構築

名古屋大学高等教育研究センター 准教授 中島英博 先生

ワークショップ②-Aでは、自己成長の目標を持つこと、自己目標を到達するためのFDを検討することを目的に、中島英博先生による講義とグループワークが行われました。参加者は24名（教授8名、准教授2名、講師8名、助教6名）であり、グループワークは各職位を混合し、看護系大学の教員としての背景が異なる者同士で取り組まれました。グループワーク中は、相手の状況を理解するための質問を互に行うことで、「大学教員としての強みと課題」「この強みを作る上で役立つ経験」を共有することができました。この議論の内容をもとにグループ内でFD ニーズリスト（有用・必要な経験、FDのテーマ、対象、マザーマップの該当項目）を作成し、経験の可視化が行われました。このグループワークのように日頃の経験を教員同士で共有す

る中で、ニーズを見出し、ニーズに合致したFD企画に繋がられるという示唆が得られました。また、大学教員の能力は自己開発が基本です。ゆえに看護系大学の教員としての



自らの発達段階を確認し、開発が必要な能力に気付くためには、FD マザーマップが有用であると紹介されました。参加者の方は看護系大学教員としての日頃の悩みを共有し、

能力開発のための新たな一歩を踏み出すことに繋がったワークショップとなりました。

ワークショップ②-B 組織的課題の発見

帝京大学高等教育開発センター 教授 井上史子 先生

ワークショップ②-Bでは、「所属組織の教学上（教育・研究・管理・社会貢献）の課題を改善するための効果的なFD活動についてアイデアを共有する」を目的に井上史子先生による講義とグループワークが行われました。参加者は29名（教授20名、准教授9名）であり、7つのグループに分けて行われました。グループワークは各職位を混合し、所属も異なる者同士で取り組まれました。まず、各大学における組織課題を共有するディスカッションから始まりました。続いて、組織でのFDを行っていきにあたっての基礎知識としての組織改革の理論について、情報提供いただき、支援のポイント、FDの評価、FD担当者の役割等について学びました。井上先生の経験を踏まえた、ご講義に活発な質問が出されました。ワークでは、共通する課題を1つ選んでその解決に必要なFD活動をグループで考える作

業を行いました。各グループのディスカッションの共有の中で今後の活動のヒントを得られたのではないかと思います。



ワークショップ③ 全体の共有と振り返り

新潟大学教育・学生支援機構 准教授 加藤かおり 先生

ワークショップ③は全体の共有と振り返りを加藤かおり先生ファシリテートで行われました。

まず、FD マザーマップを使ってみてどうだったかという学びや感想についてそれぞれのワークの参加者と話してみるところから始まり、各々の学びを数人の方にご発言いただき、立場や経験で様々な受け止めがあることが分かりました。次に、午後のワークショップ②のAとBの学びについて各グループのオブザーバーより、ワークのレポートがされ、個人の目標設定と組織的な活用について振り返りました。

Aの教員個人の課題をマップを使ってみたいという、ワークが紹介されました。多岐にわたる仕事に優先順位が付けにくく、目の前のことに追われ、研究に時間がさけない等があり、出来ない自分を責める等、悪循環になったりワークライフバランスを取ることが難しかったり、ということができました。このワークで分かったことは、「複数の教員が寄ると、FDの種ができる」でした。

Bの組織課題の発見のチームのワークからは、大学には複数のFD組織があるが有機的に繋がったことができないか、大学の独自性を出すために各科目の授業設計等は、大学が淘汰されている時代なのでもっと全学的に取り組むべき課題ではないかという話題が出ました。また、各領域に任せられる部分と学部全体で取り組むことの整理が必要という話題も出ました。情報提供の後で組織課題の選択をす

るディスカッションをし、そこで出されたのは、各教員がカリキュラムポリシーを理解して取り組む、科目間の連携、情報共有の必要性等です。加藤先生からは効果的でやらされ感が少ないFDを企画ができればという助言もありました。全体としては、マップが網羅された内容であるとうかった等、色々な立場の方の意見が聞けました。

最後に、FD マザーマップでいう優れた教員がどのような姿であるのかという問いが出され、それは各々の組織の中で、どのような目指す姿があるのかを大学の理念等から創り上げてもらえればというコメントがされ、終了となりました。



「教育―研究―実践をつなぐ組織変革型看護職育成支援プログラムの開発」プロジェクト

臨地実習における看護系大学と実習病院における連携状況を評価するため、「看護教育―実践連携診断・評価ツールの開発」プロジェクトに取り組んでおります。実習病院と看護系大学のトップ管理に焦点をあてた評価ツールの試行版の開発成果として、本年度は2つの学会に報告いたしました。

第24回 日本看護教育学会 学術集会 成果報告

「看護系大学トップ看護管理者に焦点をあてた看護教育―実践連携評価ツール」

(河部房子, 黒田久美子, 野地有子, 小山田恭子, 上本野唱子,
赤沼智子, 池袋昌子, 西山正恵, 栗井直子)

日時: 2014年8月27日 場所: 幕張メッセ国際会議場

本示説の発表には、30名程度の参加者が集まりました。質疑応答では、図説した概念モデルと評価ツールの質問構成の関係についてご質問を頂きました。また参加者の方より、「今回の発表を聞いて、大変しっかりと手順を踏んでこのようなツール開発をされていることがわかり、非常に参考になった。現時点では、自分はこのようなツールを使う立場にはないが、どのような立場であっても知っておく必要のある内容だと思う」というご意見を頂きました。



第18回 日本看護管理学会 学術集会 成果報告

「看護系大学の臨地実習を受け入れる病院のトップ看護管理者に焦点をあてた看護教育―実践連携評価ツールの開発」

(黒田久美子, 河部房子, 小山田恭子, 野地有子, 若杉歩,
池袋昌子, 栗井直子, 西山正恵, 北池正)

日時: 2014年8月29日 場所: 愛媛県看護協会愛媛看護研修センター

30～40名程度の参加者が集まり、以下のようなコメントを頂きました。

「臨地実習先と大学をつなぐことは非常に重要であり、意義のある研究だと感じる。本ツールを参考に使わせて頂きたい。」「附属以外の学校からも実習も受け入れている。

附属病院でない施設が利用できるツールが必要だと感じる。」「実習施設の確保は大変であり、現在も苦労している。新しい施設と連携をとる際、どのように話をすすめていけばよいか戸惑うことがあったが、このようなツールがあると、話し合う際の手がかりとできてよいと思う。」

尚、ポスター貼付場所にツールを自由に持ち帰られるよう設置し、発表時にも希望者に配布したところ、20部近くを持ち帰って頂くことができました。

今年度の活動予定

平成22年度より文部科学省助成事業として着手された本プロジェクトは、本年が最終年度です。これまで、2つの看護実践研究に取り組んで参りました。

1つ目の「看護の独自性・専門性を可視化するリフレクション・フレームワークの開発」では、管理職である副看護部長・看護師長、中堅看護師である臨地実習指導者を対象とし、組織変革型プロジェクトに取り組む看護職の思考支援ツールとなるリフレクション・フレームワークの完成を目指して活動を進めております。

2つ目の「看護教育―実践連携評価ツールの開発」では、ツールの検証段階に到達し、より多くの看護系大学とその実習病院のトップ管理者同士が臨地実習における連携状況や課題を自己評価できるよう修正を行っています。今年度中に完成版を皆様へご報告できるかと思っております。試行版のツールは完成しておりますので、ご関心のある方は本センターまでお問い合わせください。

最後に、本プロジェクトは最終年度であるため、下記の日時・場所で成果報告会を予定しております。成果報告会では、上記の看護実践研究と合わせて、組織変革支援型研修事業の開発の一環として本センター教員と共同で取り組まれた看護管理者、臨地実習施設・大学(臨地実習指導者・大学教員)におけるアクションリサーチの成果についてもご報告する予定です。詳細はプログラム内容が決まり次第、センターのホームページ等で広報させていただきます。皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

【成果報告会のご案内】

日時: 2015年3月14日 13時半～ 場所: AP 東京八重洲通り(東京駅近くの会議場)

研修の実施状況

平成 26 年度国公立副看護部長研修

今年度も全国の大学病院から 22 人の副看護部長の方々が、研修に参加いただいています。6 月 9 日～ 13 日の研修Ⅰと 9 月 1 日～ 5 日までの研修Ⅱが実施されました。研修Ⅰでは各分野の第一人者の方々の講義を中心に学び、研修Ⅱでは病院内での現状を写真撮影されたものをデータに問題状況の分析に取り組みました。今後は、立案した実施計画に沿って、3 月に向けて問題解決に取り組むところです。研修Ⅲ（実践報告会）は平成 27 年 3 月 2～3 日に実施予定です。



平成 26 年度 教育－研究－実践をつなぐ臨地実習施設の看護学教育指導者研修（ベーシックコース）

51 名の研修生を迎え、8 月 20 日～ 22 日の 3 日間で研修を実施しました。初日は看護高等教育行政の動向、看護学教育の基礎、看護における成人教育のあり方を座学で学び、2 日目からは、グループワークですすめられました。うまくいかなかった各自の教育指導実践の事例をいかに教育のチャンスとして教材にしていくかをグループで検討し、その検討結果を使ってロールプレイングでさらに学びを深めました。短期間でしたが、全国から集まった研修生同士のネットワークも広がり、活気のあるよい研修となりました。



平成 26 年度国公立大学病院看護管理者研修（ベーシックコース）

8 月 25 日～ 27 日の 3 日間に開催しました。全国から 88 名の看護師長相当の看護管理者が集まり、熱心な学びと活発なネットワークの形成ができました。

後援をいただいた文部科学省から大学病院支援室市村尚子専門官、厚生労働省看護課から習田由美子課長補佐、日本看護協会から坂本すが会長、退院支援の専門家宇都宮宏子氏等総勢 9 名の多彩な講師陣で構成された講義では、少子高齢社会における人々の健康と生活の充実のために、いかに現場の看護管理者の役割発揮が重要であるかを再認識することができました。

なお、自組織の組織変革課題を特定し、実践計画を立案・実施する研修（アドバンスコース）につきましては、平成 27 年度開講予定です。



看護学教育ワークショップ

10 月 20 日～ 22 日千葉大学けやき会館に於いて開催いたしました。今年のテーマは、「看護系大学教員の職能開発とキャリア支援」でした。今回は当センターで開発した FD マザーマップを用いて、看護学教員の FD に焦点を当てました。全日程の参加者は全国の国公立看護系大学から 53 校の応募があり、ご参加いただきました。

活動報告

認定看護師教育課程（乳がん看護）紹介

当教育課程は、平成17年に、我が国最初の乳がん看護認定看護師の教育機関として設置されました。5月に実施されました日本看護協会の認定看護師認定審査では19名が合格し、本学の教育課程を修了した230名が全国で乳がん看護認定看護師として活躍しています。

10年目の節目である今年度は、25名の乳がん看護認定看護師研修生を迎え、7月1日に開講式を行いました。研修生は、乳がん看護認定看護師に必要な「実践・相談・指導」の3つ役割を、多くの先生方から学び、また10月から6週間の実習に臨みます。研修生には、看護現場における乳がん看護ケアの広がりや質の向上を図ることが期待されています。



今年は、11月8日に、乳がん看護認定看護師資格取得を希望する看護師および医療機関の方々を対象に、認定看護師教育課程説明会を開催いたします。内容は、当教育課程の概要や教育支援体制の紹介、研修生や乳がん看護認定看護師のメッセージ、個別相談などです。皆様のご参加をお待ちしています。

FD ネットワーク代表者会議に参加しました

9月12日、京都大学で開催されたFDネットワーク代表者会議に当センターも参加しました。本会議には、全国から12のFDネットワークの代表者が集まり「現状と課題」についてそれぞれ報告しました。また文部科学省高等教育局の猪股志野氏も参加され、「大学教育の質的転換と今後のFD」についてお話しいただきました。本会議では、FDネットワークやコンソーシアムが増え続け、飽和状態にある日本の現状を踏まえて、FDネットワークは今後どのような役割を担うべきなのか、何を期待されているのか、どう運営していくのか、等について活発な意見交換を行いました。

教育関係共同利用拠点として再認定されました

看護実践研究指導センターは、平成22年3月に文部科学大臣より「看護学研究教育共同利用拠点」として認定され活動を行ってきました。この度、5年間の認定期間を経て、新たに申請を行い、平成26年7月31日付で認定を受けることができました。期間は、平成27年4月1日から5年間です。引き続き、拠点を利用していただけるように整備していきますので、よろしくお願いいたします。

新スタッフ紹介

●認定看護師教育課程 特任助教 井関千裕

4月に着任しました。10年前は、乳がん看護認定看護師研修生の1期生でした。認定看護師取得後に、がん看護専門看護師となり、実践を積んで参りました。初めての教員ですが、約14年の臨床経験を活かして頑張ります。どうぞ、よろしくお願いいたします。

●組織変革型看護職育成支援プログラム 特任助教 若杉 歩

2013年10月よりFDマザーマップ開発の担当として着任しましたが、本年4月より担当プロジェクトが変更となりました。プロジェクトの最終年度の良いまとめができるよう、専心努力する所存です。宜しくお願いいたします。

●FDマザーマップ開発プロジェクト 事務補佐員 北野美加

FDマザーマップ開発プロジェクトが円滑に進みますよう事務のお手伝いをしております。よろしくお願いいたします。

●認定看護師教育課程 事務補佐員 友澤奈津子



左から 北野・若杉・井関・友澤

看護学教育研究共同利用拠点

発行 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター

〒260-8672 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL : 043-226-2377・2378(看護学部事務部)

URL : <http://www.n.chiba-u.jp/center/>

E-mail : nursing-practice@office.chiba-u.jp